

報道の解禁日（日本時間）

（テレビ、ラジオ、インターネット）：平成29年8月21日 午後6時

（新聞）：平成29年8月22日 付朝刊

平成29年8月21日

記者會、記者クラブ 各位

氏か育ちか？ 鱗食魚の「利き」の獲得

我々が、字を書いたりボールを投げたりなど、精巧で力強い動作をするときには、どちらか片方の手を使い、その手を「利き手」といいます。名古屋大学（総長：松尾 清一）の小田 洋一（おだ よういち）名誉教授（元名古屋大学大学院理学研究科教授）および富山大学大学院医学薬学研究部（医学）の竹内 勇一（たけうち ゆういち）助教は、「右利き」「左利き」が発達段階でどのように獲得されるかについて、タンガニカ湖の鱗食魚を用いて研究し、捕食時にみられる襲撃方向の利きは経験依存的な学習によって確立されるが、運動能力の左右差は生まれつき決まっていることを突き止めました。

鱗食魚は、個体ごとに口部形態に左右差があり、獲物の魚のウロコをはぎとって食べる捕食行動において、獲物の右から狙う「右利き」と左から狙う「左利き」が、同種の中に、ほぼ半数ずつ存在します。私たちは、繁殖で得た鱗食魚の幼魚や成魚を用いて、捕食行動の利きの獲得メカニズムを分析しました。その結果、鱗食魚には生得的に捕食に有利な方向があり、鱗食経験から有利な襲撃方向を学習することを明らかにしました。

ヒトの利き手を代表として、様々な動物において利きが報告されていますが、実は、その獲得機構は、ほとんど明らかになっていませんでした。鱗食魚の利きは非常に明瞭で、それを制御する入力から出力までの神経回路が想定できます。今後は、いまだ明らかとなっていない「利きの脳内制御機構」の全容が解明できると考えています。

本研究成果は、英国科学雑誌「Scientific Reports」（英国時間 8 月 21 日付）にて公開されます。つきましては、詳細について下記のとおり研究記者発表を行いますのでお知らせいたします。

記

発表日時：平成29年8月24日（木） 15時～

発表場所：名古屋大学広報プラザ2階

出席者：小田 洋一（名古屋大学名誉教授）

竹内 勇一（富山大学大学院医学薬学研究部助教）

問い合わせ先

<研究内容>

名古屋大学

小田 洋一 名誉教授

TEL：052-747-6962

FAX：052-747-6526

E-mail：oda@bio.nagoya-u.ac.jp

富山大学大学院医学薬学研究部（医学）

竹内 勇一 助教

TEL：076-434-7207

FAX：076-434-5010

E-mail：takeuchi @med.u-toyama.ac.jp

<報道対応>

名古屋大学総務部総務課広報室

TEL：052-789-2699

FAX：052-789-2019

E-mail：kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

富山大学総務部広報課

TEL：076-445-6028

FAX：076-445-6063

E-mail：kouhou@toyama-u.ac.jp